

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
はたつかこども園

法人の 基本方針	項目	実践目標（P）	実践（D）	評価（C）	改善（A）分析課題の設定
人材育成・人材確保	人材育成	働きやすい職場環境を作るために、実労働時間8時間、1時間休憩（9時間拘束）を実労働時間7時間50分、45分休憩（8時間35分拘束）に勤務時間を継続する。 勤務時間で午後に事務時間を取れるようにする。	・就業規則の勤務形態通りに休憩時間を含め実行する。 ・7時40分勤務職員が15時15分より1時間事務時間が取れるようにする。	勤務形態については、2年目ということで職員も時間の使い方が上手くなった。休憩の取り方も、乳児クラスが幼児クラスを手助けするなど、園全体でフォローし合うことができた。事務時間については、職員によって有効に使えているかは差があった。	職員が退職や産休で減った時期は、主幹保育教諭が入ったり、全員の職員で補うことができた。事務時間の使い方は、職員によっては優先順位が誤ることがあるので、その都度確認していきたい。
		新任及び2～3年目の職員に対して、業務全般において補佐をする。	・月1回の振り返りの実施 ・担当のフォローレンジャーを決めてすすめていく。	担当同士ではその都度話をしながら、保育や業務において確認を重ねていった。コミュニケーションを図り、丁寧に指導をしていたが、2年目の職員が退職となった。	この人が付いているから大丈夫といった安心感を持って職務を進められるように、普段から声を掛け相談に乗るように主幹保育教諭やフォローする立場の職員が心掛けていきたい。
		大学の講師を招き、子どもの理解を学ぶ園内公開保育を年2回行う。	・年2回の園内公開保育の実施 ・子どもの記録の取り方（ラーニングストーリー）を学び、経過記録に反映する。	体験を通して、職員同士が子どもの育ちについて共有し、話し合うことで次への関わりや保育の在り方を学ぶ機会となった。	目標としている子ども主体の保育をすすめていく為にどのようにすればよいかは常に考えているが、外部の講師に保育を客観的に見てもらうことで指摘や学びがあるので、次年度も継続していきたい。
		園内研修の充実を図る。	・園内研修委員会が中心に年5回 ・保育スーパーバイザー小山氏による研修 年12回	リズム、AED、嘔吐処理など委員会が中心となり行うことで、職員に実践的な効果があった。月ごとにテーマをもって研修を行った。自然あそびでは実際に職員も楽しむことで保育に活かすことができた。	職員が学びたい内容を取り入れながら、職員中心で進めていきたい。職員が学んだことを子どもたちと実践し、一緒に楽しむことは職員の喜びとなり保育内容を高めていくことにも繋がっていく機会となる。
家族支援	保護者との連携	行事以外の時間にも保護者参加の機会を作り、よりよいこども園作りを目指す。	・おやじの会 年2回（プール設定・解体） ・保護者ボランティアによる園外保育の付き添い 年2回（農園体験）	おやじの会は定着して子どもの為にとプールの設置や解体、夏の環境をつくる日よけなどの設置、掃除などの作業を通して園の様子を知ってもらえた。農園体験は、公共機関を利用して行くため、お父さんお母さんスタッフは、安全面も含めて行えている。又畑を管理してくれる人の顔もわかり保護者も感謝して体験することが出来ていた。	お父さんの力は子どもたちにとっても良い場となり一緒に片付けや掃除などが出来て良かった。お父さん同士の交流の場となってきた。園外保育は保護者の参加で公共交通機関を利用できるためこれからも協力を求めながら、体験学習の良いところを伝えていきたい。

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
はたつかども園

法人の 基本方針	項目	実践目標 (P)	実践 (D)	評価 (C)	改善 (A) 分析課題の設定
家族支援	保護者との連携	子育て支援講座を開催し、共に子育てについて考え語り合える場(年5回)を提供する。	・りえこ先生の親子工作 年4回 ・就学前座談会 年1回	親子工作は、毎回楽しみにされている親子がいる程人気の講座になっている。親子で作って遊ぶ時間がとても友好的である。親子で楽しい会話を交わして参加している。 座談会は小学校のお子さんを持つ保護者の方が中心となり、就学前の不安をもっている保護者に対してわかりやすく現状を教えてくれるため良い時間となっているので次年度も続けたい。	親子工作は、参加人数が増えてきており好評である。兄弟関係で卒園児の参加もあり良い機会となっている。親子の共同作業は貴重な時間になるので継続していきたい。 小学校入学が初めての保護者は不安を多く抱えているので少しでも解消できる場としていきたい。
		栄養相談や給食懇談会を年2回開催する。(6月・11月) 誕生日にリクエストメニューを提供して大切な日にする。	・アンケートの実施と個別の栄養相談会の実施 ・個々の誕生日に好きなメニューを提供する	子どもたちも園では何でも食べているが家では偏食の子が多かった。個別に対応することでその家庭にあった支援が出来ていた。 誕生日に好きなメニューを食べて、身近な友だちに祝ってもらうことで一人一人にとって大切な一日となっていた。	個別の相談対応やレシピの紹介などを考えて、家庭でも出来るものの提供を進めていきたい。 誕生日を祝う一環の中のリクエストメニューであり、一人一人が生まれてきた日を祝うというコンセプトを保護者へ発信する。
サービスの質の向上	保育内容	4歳児を中心として自然に関わる中で、自然の不思議に興味を持ち友だちとの対話を深め、考えたことに挑戦し学びを深める。 (森のムッレ教室 年5回) [別紙1]	・園周辺の公園や布引のふもとなどの季節に応じた自然の様子を体験し、循環やリサイクルについて学ぶ。	四季を通して、自然の中で見て、考えて、知るという体験をする機会となった。自然を守るためにできることは何かを考えるきっかけになり、楽しく学べたことが子どもにとってとても良かった。自然を大切にするという中で分別についても良い体験となり家で出かけたときもゴミを拾い分別する姿が見られた。	自然に触れて感動する体験を通して、子ども自身が自然の変化を感じたり、探求心の育ちとなっている。この体験は幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の「自然との関わり」の視点につながっている。5歳児での体験にも活かされる様に活動を継続していく。
		子どもが主体的に遊ぶ様子を可視化する。	・グループごとにテーマを決めてプロジェクト保育を行う。 ・遊びの様子を写真などで記録する。	どの年齢も遊びの様子がわかるように写真を利用して掲示やファイルで見えるようにした。保育教諭も子どもの様子を書き加えることで保育内容を楽しみきっかけとなった。保護者が見たり参加することで、園での様子を知ってもらうこととなった。	可視化することは、保育教諭や保護者にとって充実感につながるようだ。より保育がわかりやすく見えて、保育の楽しさや満足感となるように継続していきたい。

令和元年度 実践目標及び報告

幼保連携型認定こども園
はたつかこども園

法人の 基本方針	項目	実践目標（P）	実践（D）	評価（C）	改善（A）分析課題の設定
サービスの質の向上	質の向上	権利擁護について月1回学び、子どもの意見表明について考える場を持つ。	- 全体での権利擁護についての研修の実施 - チェックシートを用いて、正規職員、非常勤職員全員が個々に見直す。	全職員でマスコミで報道されている事例をもとに体罰、虐待について話し合うことができた。また現場でもありえることに気づくことができた。	子どもに対する関わり方については大人都合ではなく、子どもの気持ちに寄り添って対応することを実践していきたい。職員同士が、その態度はいけないだろうという時は互いに声を掛けあう関係作りを心掛ける。
		法人理念・保育方針をもとに、質の向上をめざして第三者評価を受審する。	- マニュアルの見直しを行い、全職員で周知する。 - 保育に必要な書類や記録が整っているか見直す。	第三者評価を受けたことで、園のマニュアルや記録等を再度見直した。理念や保育方針についても、再確認したこと、全職員で周知したことで、職員間の意識も高まった。普段当たり前にしていることから、自分たちの保育の振り返りにつながった。保護者アンケートにおいても回収率は50%で、好意的な意見が多かった。	保育の中で行っている仕事内容において、実際にやっていることの意味を再認識する機会となり、保育あつてのマニュアルであることを職員間で実感したとの声があった。 令和3年度新園舎に向けて、園のマニュアルや記録の取り方を見直し検討していきたい。
地域との共生	地域との連携	地域清掃を職員、2～5歳児が毎月19日に行い地域の方とのふれあいを大事にする。	有志の子どもたちで近隣の公園などの清掃に行く。	今年度は、夏の暑さや定期的に一年を通して継続して地域清掃に取り組むことができなかった。	地域清掃について、ムッレの活動から自然に興味を持った4歳児が中心になり、小グループで子どもたちと活動を広げる。地域のマップ作りから、清掃の意味や季節を感じ、地域清掃へ展開したい。 また、清掃活動から地域を知る機会にする。
		給食提供「はたつかランチ」を年3回実施し、地域の方と子どもたちが一緒に給食を食べる場をもつ。	年2回の実施。	地域の方や、おはなしの会年6回のボランティアの方を招いて子どもたちとの交流と食事を楽しめた。子どもたちの歌や遊びをとり入れることで、より親しみをもちあうことができた。参加の方々にも喜んでいただけた。	地域の方々にとってもほっとする時間となり、子どもたちにとっても年齢をこえて交流するとても貴重な機会なので、継続していきたい。普段お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちをおこめて行うよい機会だ。
	子育て支援	子育て支援の場として、子ども園体験おひさまルームを年10回開催する。地域の親子10組を受入れる。 [別紙2]	「おひさまルーム」として1、2歳児の親子を対象に年10回開催する。	子育てにの悩みを共有できる場にもなっている。今年度は回数を増やし園の行事にも参加できるように計画した。季節に合わせてテーマや内容を決めて計画を行ったことで毎回楽しみにきていただいた。	家では体験できない行事にも参加出来て喜んでくださった。在園児にとっても地域の子とも触れ合う良い時間となっている。令和3年度に向けては、おひさまルーム参加者に優先枠として取り入れるように改善していく。